

祝日前にみる公開処刑が唯一の娯楽だった——
何冊読んでも「わからなかった」中国が理解できる本

『私たちは中国が世界で一番幸せな国だと思っていた——わが青春の中国現代史』

(著者)石平、矢板明夫

(価格)1300 円＋税 (発売日)2018 年 6 月 5 日 (出版元)ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区 代表取締役:唐津隆)は、新刊書籍「私たちは中国が世界で一番幸せな国だと思っていた——わが青春の中国現代史」を2018年6月5日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

◆中国近現代史上最悪の暗黒時代を生きた二人の証言

元中国人エリート 石平氏と日本人残留孤児 2 世として、15 歳まで中国で育った矢板氏と家族が目撃した全体主義国家・中国の生々しい現実を描く中国現代史。以下内容を抜粋します。

- ◎完璧な情報統制で自分の親戚が餓死したことも秘匿された
- ◎日本人であるということだけでスパイの嫌疑をかけられ 10 年間銭湯でアカスリをさせられた矢板氏の父、幼い石平氏を残したまま別々の場所に 8 年間下放された両親
- ◎農村なのに食糧がない、物資も欠乏し三人兄弟でズボン一つ、五人家族で布団が一組
- ◎無実の両親を密告した息子が英雄にされ、その結果彼の両親は処刑された可能性がある
- ◎ある中国知識人が言った言葉「毛沢東が唯一した正しいことは自分が死んだこと」
- ◎八〇年代は日中蜜月時代で、中国政府が反日運動を弾圧し、中国人たちは日本の大衆文化に夢になっていた時代があった
- ◎鄧小平時代にいったん廃止となった「公開処刑」が習近平政権になって復活した



【もくじ】より

◎はじめに 真実を伝えるのが中国への恩返し(矢板明夫)◎第一章 暗黒の少年時代◎第二章 毛沢東がつくった恐怖の二七年間◎第三章 日中が蜜月だった八〇年代◎第四章 人生の転機、アイデンティティの克服◎第五章 反日と愛国の源流◎第六章 王岐山を支配下においた習近平が狙うのは太子党◎第七章 強権政治の裏にある指導者たちの不安◎第八章 次なる成長の柱を見つけれない経済の悲劇◎第九章 習近平最大のばくち、台湾併合◎おわりに「暗黒中国」は日本にもある

石平 (せき へい)

拓殖大学客員教授。1962 年、中国四川省成都市生まれ。80 年、北京大学哲学部に入学後、中国民主化運動に傾倒。84 年、同大学を卒業後、四川大学講師を経て、88 年に来日。95 年、神戸大学大学院文化学研究科博士課程を修了し、民間研究機関に勤務。2002 年より執筆活動に入り、07 年に日本国籍を取得。

矢板明夫 (やいた あきお)

産経新聞外信部長、元北京特派員。1972 年中国天津市生まれ。15 歳のときに日本人残留孤児 2 世として千葉県に引き揚げ。1997 年慶応義塾大学文学部卒業。同年松下政経塾に入塾(第 18 期)。研究テーマはアジア外交。その後、中国社会科学院日本研究所特別研究員、南開大学非常勤講師などを経て、2002 年中国社会科学院大学院博士課程修了後、産経新聞入社。さいたま総局などを経て、07 年から産経新聞中国総局(北京)特派員。17 年から現職。

【お問い合わせ先】株式会社ビジネス社 広報担当:松矢 162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

TEL03-5227-1602 / FAX 03-5227160

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。